

永田勝彦先生（1980年研究室にて）

写真提供：株式会社491アヴァン札幌



①ゼミ風景から(1995年)



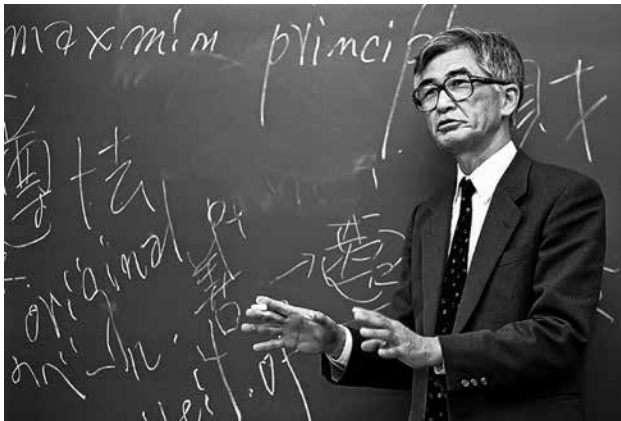
②1964年1月、大谷地のプレハブ校舎に移転当時の教員スタッフ。二列目右から5人が永田先生。



③1978年8月22日、社会福祉夏季セミナー



④1992年、大学院文学研究科社会福祉学専攻(修士課程)入学式。二列目左から5人が永田先生。



⑤最終講義の様子(1995年)



⑦1971年4月11日、授業の様子



⑥ゼミ風景から 写真左(1981年)写真右(1989年)



⑧研究室での卒論指導(1988年)

※①、④～⑥、⑧の写真提供 / 株式会社491アヴァン札幌

## 巻頭言：永田勝彦教授追悼号の発刊に寄せて

社会福祉学部長 田 実 潔

北星学園大学草創期から本学で活躍され、社会福祉学部の基礎を築かれた永田勝彦先生が2019年4月2日94歳でお亡くなりになりました。このたび、永田先生から薫陶を受けた教え子の方々や永田先生の研究魂を引き継いだ研究者や関係者の方々から、永田先生の北星学園大学での足跡を後世に伝えるために、是非追悼号を！という強い希望が多く寄せられ、社会福祉学部北星論集第58号となる今号を故永田先生追悼号として発刊することとなりました。

永田先生は、早稲田大学大学院で心理学を学ばれた後、1955年に北星学園大学女子短期大学（当時）に講師として着任され、文学部助教授（女子短期大学助教授併任）を経て1962年の大学開設に伴い1963年に文学部教授とされました。以後1996年に定年退職されるまで、学生部長や図書館長を含め、5期10年にわたり学部長も務められました。当時は、大学が新設された時期で北星学園大学の現在の基盤を築いていく時期にあたり、当時としては全国的にも少なかった国際交流の実施や教員の国内外研修、入試改革（社会人入試や小論文の導入）など先駆的な取組みを率先して導入し、北海道の小さな大学であった北星学園大学を先進的な大学へと導かれました。

研究者、教育者としても、かつての教え子である学生とともに北星学園大学で働いた教職員から高い評価を得られておられました。2019年6月に有志による「お別れ会」が開催されましたが、教職員や関係者約40人、ゼミ生など教え子から約100名の参加があり、北星学園大学の教員だけでなく事務職の方からの参加も多くあったということが永田先生のお人柄が偲ばせるものでした。研究者としては、心理学的手法を用いて社会福祉における様々な諸課題の研究に取り組んでおられました。永田先生のライフワークは「福祉意識 測定尺度の構成」に関する研究でしたが、1974年の「社会福祉に関する態度尺度の構成」などの研究に見られるように、いわゆる福祉の枠組みを、心理学的な客観性や再現性を担保する研究手法を用いることで、修正し再構築の試みに取り組んでおられました。また、学生に対しては、とにかく学生を未成年であっても大人としてきちんと扱っておられたことが、卒業生たちからの多くの思い出として寄せられています。

「永田先生に会い、他人からこんなに大切に接してもらったことはないと感じた」というある卒業生のことばに示されるように、学生一人ひとりに対して特別な感心を持って接しておられたようでした。また、ラグビー部の顧問も長く担当して頂いており、ラグビーのノーサイドの精神や紳士としての在りようが、学生対応の背景にあったのかもしれませんが。

改めて永田先生のご足跡を振り返ってみると、北星学園大学で永田先生が取り組まれた学内行政の業績や研究・教育活動の大きさに驚嘆するばかりです。追悼号として、改めて永田先生に感謝の意を申し上げるとともに、追悼の意とし巻頭言と代えさせていただきます。

## 故 永田勝彦名誉教授のご略歴

1926年 1 月18日	奉天市（現・中国瀋陽市）にて出生（本籍 熊本県）
1953年 3 月	早稲田大学文学部哲学科心理学専攻卒業
1955年 3 月	早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻修了
1955年 4 月	北星学園女子短大 専任講師として着任
1958年 9 月	北星学園女子短大 助教授
1960年 7 月	北海道大学教育学部 非常勤講師（至1980年 3 月）
1962年 4 月	北星学園大学文学部（社会福祉学科）助教授
1963年 4 月	北星学園大学文学部 教授
1965年 4 月	北星学園大学 学生部長（至 1967年 3 月）
1967年 4 月	北星学園大学 文学部長（至 1971年 3 月）
1972年 4 月	北星学園大学 図書館長（至 1974年 3 月）
1974年 4 月	北海道大学 文学部非常勤講師（至 1975年 3 月）
1976年 4 月	北星学園大学 文学部長（至 1978年 3 月）
1980年 4 月	北星学園大学 文学部長（至 1982年 3 月）
1988年 4 月	北星学園大学 文学部長（至 1990年 3 月）
1991年 3 月	北星学園大学文学部 定年退職
1991年 4 月	北星学園大学 名誉教授
1991年 4 月	北星学園大学特別専任として採用
1996年 3 月	北星学園大学嘱託年齢制限により退職
2019年 4 月 2 日	逝去（享年94歳）

### 学会・社会における活動

- ・日本心理学会会員（1953年 4 月～）
- ・北海道心理学会会員（1958年 4 月～，1976－87常任理事，89－90会長）
- ・日本社会福祉学会会員（1963年10月～）
- ・日本社会心理学会会員（1968年 4 月～，1973－77・82－理事）
- ・北海道社会福祉学会会員（1969年 4 月～）
- ・日本グループダイナミックス学会会員（1971年 4 月～）
- ・日本応用心理学会会員（1989年 4 月～，1989－常任運営委員，1990－1991会長）
- ・北海道共同募金会（1981－配分委員，86－評議員，90～理事）
- ・日本社会事業学校連盟理事（1982年 4 月～ 88年 3 月）
- ・北海道社会福祉研修所運営委員（1983年 2 月～ 88年 3 月，1986－87委員長）

## 故 永田勝彦名誉教授 業績目録

### ● 編著書

- ・「民生・児童委員」『北海道社会福祉事業史』所収 北海道社会福祉協議会, 1987年.
- ・「民生委員の展望」『民生委員七十年のあゆみ』所収 北海道民生委員連盟, 1987年.
- ・永田勝彦監修／忍博次・大坊郁夫・松井二郎・池田雅子編著『福祉社会の展開と課題－新しい福祉のパラダイムを目指して－』北大路書房, 1991年.

### ● 論文

- ・「遡行抑制に関する一研究」『北星学園女子短大紀要』Ⅱ, 1956年.
- ・「遡行抑制の分析的研究—学習程度と再生について」  
『北星学園女子短大紀要』Ⅲ, 1957年.
- ・「色彩の嗜好と象徴的意味の関連性について」『北星学園女子短大紀要』Ⅳ, 1958年.
- ・「概念の色彩について (1)」『北星学園女子短大紀要』Ⅴ, 1961年.
- ・「遡行抑制因子の機能について (1)」『北星学園女子短大紀要』Ⅶ, 1961年
- ・「社会福祉施設職員の態度に関する研究—伝統的価値志向と役割期待を中心として」  
『北星論集』2号, 1965年. (助川貞利・忍博次との共同研究)
- ・「民生委員の意識構造に関する研究」『社会福祉学』10号, 1970年.  
(忍博次・石川恒夫・沢井光子との共同研究)
- ・「老人観の発達的研究」『北海道私学教育研究協会紀要』24号, 1971年.
- ・「社会福祉に関する態度尺度の構成」『社会福祉学』15号, 1974年.  
(西塔正一との共同研究)
- ・「女子高校生における職業意識の構造」『北海道私学教育研究協会紀要』33号, 1974年
- ・「高校生の政治意識に関する一考察」『北海道私学教育研究協会紀要』48号, 1979年
- ・「民生委員の活動類型と地域差の研究」北海道社会福祉協議会, 1983年  
(松井二郎・米本秀仁・杉岡直人・林恭裕との共同研究)
- ・「社会福祉学科カリキュラム変遷の思想史」『北星福祉年報』1号 (創刊号), 1984年.
- ・「保育所における男性保育者の位置と課題」北海道社会福祉協議会, 1989年.  
(小田進一・西塔正一との共同研究)
- ・「福祉施設が果たす地域の福祉的变化と住民意識に関する総合的研究」『北海道ノーマライゼーション研究』No. 1, 1989年. (著作者多数)
- ・「北星社会福祉のあゆみと課題 (特別講演)」『北星福祉年報』8号, 1992年.

- ・「社会福祉における価値と専門性（退職記念講演録）」『北星福祉年報』12号, 1996年.
- ・「北星学園と関わるようになって」『北星教育と現代』2号, 2014年.

## ●学会発表

- ・「再生語の学習程度と妨害学習の位置」日本心理学会第20回, 1956年.
- ・「非行少年のロールシャッハによる適応得点について」日本心理学会第23回大会, 1959年.
- ・「民生委員総務の態度に関する研究」日本社会福祉学会13回大会, 1965年.  
(忍博次との共同研究)
- ・「民生委員の研究IV」日本社会福祉学会16回大会, 1968年.  
(石川恒夫・沢井光子との共同研究)
- ・「社会福祉に関する態度尺度構成の試み」日本社会福祉学会第21回大会, 1973年.  
(西塔正一との共同研究)
- ・「社会福祉学専攻学生の態度」日本社会心理学会15回大会, 1974年.
- ・「社会福祉学専攻学生の態度変容と福祉志向」日本社会福祉学会22回大会, 1974年.  
(笠原宏子・田中節子との共同研究)
- ・「因子分析法による社会福祉態度の研究」日本社会福祉学会23回大会, 1975年.  
(西塔正一・清野雅瑞・神村真木子との共同研究)
- ・「社会福祉意識の分析的研究」日本社会福祉学会25回大会, 1977年.  
(神村真木子との共同研究)
- ・「社会福祉対象者に関するイメージの意味の分析」日本社会福祉学会25回大会, 1977年.  
(西塔正一・神村真木子との共同研究)
- ・「接触者・関心度と対象者イメージ」日本社会福祉学会26回大会, 1978年.  
(西塔正一・神村真木子・関崎千恵子との共同研究)
- ・「福祉意識の構造と属性による分析」日本社会福祉学会27回大会, 1979年.  
(神村真木子との共同研究)
- ・「政治意識と福祉観に関する一考察」日本社会福祉学会27回大会, 1979年.  
(南 睦美との共同研究)
- ・「社会福祉対象者のイメージの構造分析 1」日本社会福祉学会27回大会, 1979年.  
(西塔正一・神村真木子・関崎千恵子との共同研究)
- ・「社会福祉対象者のイメージの構造分析 2」日本社会福祉学会28回大会, 1980年.  
(西塔正一・神村真木子との共同研究)
- ・「態度の中心性からみた『福祉』の位置」日本社会福祉学会28回大会, 1980年.  
(杉村小貴美、佐々木明美との共同研究)
- ・「態度における福祉政策の相対的位置」日本社会福祉学会30回大会, 1982年.  
(佐々木明美との共同研究)
- ・「民生委員の活動類型と地域差の研究」日本社会福祉学会30回大会, 1982年.

- (松井二郎・米本秀仁・杉岡直人・佐々木明美・杉村小貴美との共同研究)
- ・「社会福祉学専攻学生の実態分析」日本社会福祉学会31回大会, 1983年.  
(忍 博次、太田義弘、松井二郎・白沢久一、米本秀仁・杉岡直人・佐々木明美との共同研究)
  - ・「社会福祉における援助行動の要因分析 (第1報)」日本社会福祉学会31回大会, 1983年.  
(池田雅子との共同研究)
  - ・「民生委員に対する住民の認知度の研究 (第1報)」日本社会福祉学会31回大会, 1983年.  
(松井二郎・米本秀仁・西塔正一・佐々木明美・池田雅子との共同研究)
  - ・「社会福祉における援助行動の要因分析 (第2報)」日本社会福祉学会32回大会, 1984年.  
(池田雅子との共同研究)
  - ・「民生委員に対する住民の認知度の研究 (第2報)」日本社会福祉学会32回大会, 1984年.  
(松井二郎・米本秀仁・西塔正一・佐々木明美・池田雅子との共同研究)
  - ・「民生委員に対する住民の認知度の研究 (終報)」日本社会福祉学会33回大会, 1985年  
(松井二郎・米本秀仁・西塔正一・佐々木明美・池田雅子との共同研究)
  - ・「福祉意識の変動に関する因子構造的な研究」日本社会福祉学会33回大会, 1985年.  
(池田雅子・山下 泉・安田由美子との共同研究)
  - ・「福祉意識の規定因に関する研究」日本社会福祉学会34回大会, 1986年.  
(安田由美子との共同研究)
  - ・「社会福祉専攻学生の実態分析 (第二報)」日本社会福祉学会35回大会, 1987年.  
(松井二郎・米本秀仁・杉岡直人との共同研究)
  - ・「地域住民の認知にみる共同募金運動の課題」日本社会福祉学会36回大会, 1988年.  
(鈴木敏彦・齊藤美雪との共同研究)
  - ・「社会福祉専攻学生の実態分析 (第三報)」日本社会福祉学会36回大会, 1988年.  
(松井二郎・米本秀仁・杉岡直人、安田由美子との共同研究)
  - ・「保育所における男性保育者受容の検討」日本社会福祉学会37回大会, 1989年.  
(小田進一・西塔正一との共同研究)
  - ・「福祉施設がもたらす地域の福祉的变化と住民意識に関する研究」日本社会福祉学会37回大会, 1989年.  
(奥村次雄・阿部京子・成田勝志・三戸部隆・新田孝雄・増井滋美との共同研究)

## ● 調査研究

- ・「社会福祉専攻学生の態度と変容—北星学園大学社会福祉学科調査研究報告書—」北星学園大学文学部社会福祉学科, 1990年.  
(松井二郎・米本秀仁・杉岡直人との共同研究)
- ・「赤い羽根共同募金についての調査結果報告—社会福祉施設の『共同募金』に対する認知と期待—」北海道社会福祉協議会, 1993年.



# 永田勝彦先生とラグビー

文学部 藁 内 豊

永田勝彦先生と私は、年齢も離れており(おそらく38歳差)、研究分野も全く異なっていたので、本来であれば交わることはなかったと思います。それが、ラグビーという共通の趣味というか楽しみを通して、様々な交流をさせていただきました。ここでは、ラグビーに関連する思い出深い出来事の一部を紹介させていただきます。

## ○引き継ぎ

永田先生との最初の記憶は、ラグビー部顧問の引き継ぎです。私が北星学園大学に着任したのは1991年(平成3年)の4月でした。永田先生は、その年の3月で定年退職をされ、ラグビー部の顧問も退かれたところでした(特別専任教員としては在職されていました)。そのタイミングでラグビー経験のあった私が着任したので、自然とラグビー部の顧問を引き継ぐことになりました。引き継ぎは、当時のラグビー部のキャプテンや一部の部員も同席し、永田先生の研究室で行ったと記憶しています。そのときのキャプテンの話の概要としては、学生主体の部活動なので、強制的な厳しい指導は望まない、というような内容だったように思います。新しい顧問から相当厳しい練習が課せられるのではないかと恐れていたようです。後に聞いたのですが、少し前に強豪大学出身のラグビー経験者からスパルタ的指導を受け、そのような指導法に辟易としていたそうです。

## ○OB戦

毎年、ゴールデンウィークにOB戦が行なわれます。土が固いので本当はラグビー向きではないのですが、場所はいつも北星学園大学のグラウンドです。最後の10年くらいは体調が優れずに来られなかったのですが、それまではほぼ毎年来ていただきました。永田先生は北野のご自宅からいつも自転車で来られました。晩年は大谷地特有の強風で、先生の自転車がふらつくのが心配で気になることも何度かありました。

OB戦には卒業したてのOB/OGだけでなく、卒業してから少し時間のたったOB/OGも駆けつけてくれます。時には子供連れのこともあります。その光景は、おじいちゃんと孫という感じで、永田先生も笑顔で楽しそうにされていたことを覚えています。このように卒業したOB/OGとの交流も大切にされていました。

## ○公式戦

ラグビー部には、公式戦が3つあります。6月下旬～7月上旬の北海道ラグビー選手権大会、7月下旬の大学セブンズラグビー大会、9月～10月の北海道地区大学ラグビー大会(インカレ大会)です。これらの大会にも、永田先生は頻繁に応援に来ていただきました。また、飲物などの差し入れもいただきました。

最も近いグラウンドは月寒ラグビー場ですが、ここは北海道ラグビーの聖地で、北星学園大学が月寒を使用できるのはインカレ大会で決勝まで進んだ時くらいです。めったに使うことができません。通常は、野幌、定山溪、小樽、夕張など、札幌からは少し離れた不便なところに位置しています。永田先生は車の運転をされなかったので、よくご自宅まで車でお迎えに行きました。グ



ランドまでは少し時間がかかるので、往き帰り車中で、大学のこと、ラグビー部の歴史のこと、ご家庭のことなど、いろいろなお話をうかがいました。

永田先生は、試合が終わった後にラグビー部の学生たちを激励されました。優しい笑顔であるけれど、背筋を伸ばして、言葉はしっかりと、情熱を持った口調で話されていた印象があります。その永田先生がよく口にされていた言葉に、「素人集団がよくがんばった」があります。この言葉には、勝敗だけではなく、地道に努力を重ねることが大事で、誰でもが成長することができる、という意味があると思っています。改めて考えると、これはラグビーだけではなく、あらゆることにも通じる言葉と思います。これからも北星学園大学ラグビー部の伝統として、「素人集団」の精神を受け継いでいきたいと思っています。

### ○祝勝会

永田先生は、様々な飲み会にも参加されました。OB戦の後の懇親会にも来ていただきました。そのような飲み会で最も印象的なのは、北星学園大学が一部リーグに昇格した時の祝勝会です。その時は、多くのOB / OGも駆けつけ、現役学生の活躍と一緒に祝ってくれました。その祝勝会での光景です。壇上に上がってマイクを使い、いつも以上に上機嫌の永田先生からお祝いの言葉をいただきました。私も酔っぱらっていたので先生の話の内容は全く覚えていませんが、永田先生の嬉しそうな表情を今もはっきりと記憶しています。

### ○2019年

永田先生が亡くなられた半年後、日本でラグビーワールドカップが開催されました。私も札幌ドームで行われた試合には、ビールを片手に生観戦を楽しみました。大通公園でのパブリックビューイングでは、ラグビーならではの交流もありました。また、テレビを通して日本チームを応援し、ラグビーワールドカップの盛り上がりを楽しみました。永田先生も天国からラグビーワールドカップ2019日本大会の成功を喜んでおられたことと思います。

合掌。